

小学校から英語教科化！？中高校では「英語は英語で教える」！？

英語を大嫌いにする教育が始まる！

「グローバル人材育成」の英語教育を問う

■日時 4月2日(日) 13:30~16:30
(開場13:00)

■場所 エル大阪 南734号室
地下鉄谷町線・京阪「天満橋」下車7分

参加費：800円（学生400円）
(事情のある方はご相談ください)



講演

江利川春雄さん (和歌山大学教育学部教授)



「新学習指導要領における英語教育政策の危険性と対応策」

現在の英語教育政策に批判的な「4人組」の一人として『『グローバル人材育成』の英語教育を問う』、「学校英語教育は何のため?」、「英語教育、迫り来る破綻」(以上ひつじ書房)、「大問題!子ども不在の新学習指導要領」(合同出版)などを執筆。

2020年度から実施される学習指導要領の改訂作業が大詰めを迎えています。最大の特徴の一つが英語教育重視です。現在、小学校5・6年生に実施している「外国語活動」(週1時間)を3・4年生におろし、5・6年生では教科化(週2時間)するとしています。教科化によって教科書を使って読み書きが教えられ、通知表に成績も記載されます。他教科の時間数が維持されている中で、子どもたちに一層の詰め込みを強いることとなります。また、すでに英語塾に通う小学生が増えており「英語格差」が低年齢化する傾向が加速することは明らかです。

中学・高校では、高校卒業までの新出単語数を1.5倍に増やし、到達目標を引き上げようとしています。高校での「英語は英語で教える」授業が破綻している中で、中学校でも実施するとしています。英語の学力格差を広げ、英語嫌いを増やすだけです。さらには、英検などの外部検定試験を導入し、子ども同士、学校間での競い合いが強まろうとしています。

英語教育は「グローバル人材育成」のために行うものなのでしょうか?英語教育の早期化で教育的な効果はあがるのでしょうか?現在進められようとしている英語教育重視政策について考えていきたいと思えます。是非、ご参加ください。

子どもに「教育への権利」を!大阪教育研究会

電話: 09036515876 ブログ: 会名で検索